

第4章 子育て・教育

第1節 子育て支援

1.子育てしやすい環境づくり

所管課：保健福祉部社会福祉課、保健福祉部愛育園、建設部都市整備課、教育部学校教育課

概要(目的、これまでの取組、現状・課題等)

震災に伴う住居の移転等により、住み慣れた土地を離れるのみならず、親世帯と子世帯の分離が進むなど、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しました。子どもたちの健全な育成や事故防止につながっていた地域のコミュニケーションが弱まったことから、新たな環境で生活をはじめた子どもたちが、安全に生活できるよう放課後児童クラブを継続的に運営していきます。

また、子育てに関する情報提供やネットワークづくりの推進をするとともに、学校給食費を無料とするなど、子育て世代への支援を行っています。

さらに、子どもたちが安心して遊び、多世代間のコミュニティの場となる施設を整備し、子どもを育てやすい地域づくりを進めます。

主な事業

進捗状況	事業名	実施地区・箇所	事業概要
継続	放課後児童クラブ事業	市内各放課後児童クラブ	事業内容：放課後児童クラブを運営し、児童の健全な育成と事故防止を図る 事業期間：平成24年度～
継続	地域子育て支援施設「相馬愛育園」の活用	相馬愛育園	事業内容：親子の交流の場や地域の子育て関連情報等の提供 育児相談の実施 一時預かり事業、放課後児童クラブ 事業費：2,089万円（令和2年度） 事業期間：平成27年度～
継続	角田公園休憩所「相馬こどものみんなの家」の活用	相馬こどものみんなの家	事業内容：角田公園内休憩所に保育士等を配置し、子育て支援の拠点とする 事業費：687万円（令和2年度） 事業期間：平成26年度～
継続	学校給食費の無料化	市内各小中学校	事業内容：学校給食費を無料化することにより、子育て世帯の経済的負担を軽減する 事業費：16,018万円（令和2年度） 事業期間：平成30年度～
新規	「尾浜こども公園」の管理・運営	尾浜こども公園	事業内容：公園の適切な管理・運営 子育て世代等が利用しやすい環境づくり 事業費：536万円（令和2年度） 事業期間：令和2年度～

今後の方針(実施上の課題、事業展開予定)

放課後児童クラブについて、利用者ニーズに対応し、平成28年度に利用対象児童を全学年へと拡大しましたが、さらなるニーズへの対応が求められています。そのため、引き続き関係機関と連携し運営のために必要な放課後児童支援員の確保に努めるとともに、支

援員の資質向上につながる各種研修への参加や受入れ体制の強化などにより、安心して子どもを預けられる環境づくりを行います。

また、相馬愛育園について、各種事業を継続的に実施していくため、広報紙や SNS、市ホームページ等を通して施設内容及びイベント等について情報発信し、各種事業への参加を促すなど、子どもを育てやすい環境づくりを進めます。事業実施にあたってはアンケート等を活用し、利用者の声を踏まえた支援策の見直しや保育士や放課後児童支援員等の安定的な人材確保に努めます

さらに、尾浜こども公園について、地域住民主体で構成された NPO に管理を委託することにより、地域から親しまれる公園にしていくとともに、幅広い世代が利用できる施設として子育て世代のみならず多世代間のコミュニティの場となるよう努めます。

相馬市マスタープラン 2017 との関係性

第 3 章 安心な子育て環境の整備と心豊かなひとづくり

第 1 節 子育て環境の整備

- (1) 安心して子育てができる環境づくり
- (2) 子育て、子育てを支援する地域内交流の活性化
- (3) 心豊かでたくましい子どもを育む保育の推進



相馬こどものみんなの家での「プレおよこ教室」



相馬愛育園での地域子育て支援拠点事業



尾浜こども公園の屋外遊具

第2節 教育の充実

1.学力の向上

所管課:教育部学校教育課

概要(目的、これまでの取組、現状・課題等)

震災により、応急仮設住宅への入居を余儀なくされるなど、学習環境が変化した子どもたちがいたことから、特色ある学習を推進し学力向上に資することを目的に、被災した沿岸部の磯部中学校、中村第二中学校へICT機器を導入しました。

この取組により生徒の学習意欲向上の効果が見られたことから、令和元年度からは国のGIGAスクール構想に基づき市内の各小中学校へICT機器を順次導入し、授業での活用を積極的に推進しています。さらに、読解力向上のためのリーディングスキルテストを活用し、学校教育の両輪として事業を展開していきます。

また、中学生を主な対象として、東京大学及び特定非営利活動法人相馬フォロアーチームと連携し、東京大学学生ボランティアによる学習支援活動(相馬寺子屋事業)を行い、総合的な学力の向上を目指します。

主な事業

進捗状況	事業名	実施地区・箇所	事業概要
継続	ICTリテラシーの向上の推進と情報モラル教育の充実	市内各小中学校	事業内容: ICT機器を活用した授業公開や外部講師を招へいた研究会を実施 情報モラルについて指導する時間を各教科や学級活動に位置付け 事業期間: 平成29年度～
継続	ICT支援員を活用した研修の充実		事業内容: ICT支援員を配置し、デジタル教材の開発など学校でのICT機器活用の促進や教員研修に活用 事業費: 1,746万円(令和2年度) 事業期間: 平成29年度～
新規	GIGAスクール構想に基づくICT環境の整備		事業内容: 子どもたち一人ひとりに個別最適化された学習や創造性を育む教育ICT環境を実現するため、児童生徒1人1台のタブレット端末の導入及び校内の高速大容量ネットワーク環境を整備 事業費: 7,706万円(令和2年度) 事業期間: 平成29年度～(市独自のICT機器導入推進事業) 令和2年度～(GIGAスクール構想に基づくICT環境推進事業)
新規	リーディングスキルテスト(RST)事業		事業内容: リーディングスキルテストにより児童生徒の読解力を分析し、授業改善や指導力向上、学力向上を図る 事業費: 505万円(令和2年度) 事業期間: 令和2年度～
継続	「相馬寺子屋」事業	生涯学習会館 LVMH子どもアート・メゾン	事業内容: 東京大学学生ボランティアによる、中学生を対象とした学力向上のための学習支援 事業費: 231万円(令和2年度) 事業期間: 平成23年度～

今後の方針(実施上の課題、事業展開予定)

国のGIGAスクール構想に基づき、令和4年度までに市内の全小中学校、全児童生徒分のタブレット端末を整備する予定です。これらを最大限活用するため、ICT機器活用スキルアップを目的とした講習会・研修会を定期的の実施し、児童生徒の学力向上が図れるよう取り組んでいきます。

「相馬寺子屋」事業では、震災から10年が経過し、大学生ボランティアの確保が年々難しくなっていることが課題に挙げられます。中学生が自身の将来を具体的にイメージする機会となる本事業は、今後も運営方法を見直しながら継続し、中学生の総合的な学力向上に努めていきます。



「相馬寺子屋」事業

相馬市マスタープラン2017との関係性

第3章 安心な子育て環境の整備と心豊かなひとづくり

第3節 生き抜く力を育む学校教育の充実

- (1) 確かな学力の育成
- (7) 開かれた学校づくりの推進と家庭との連携
- (11) 情報教育の充実

2.健やかな成長

所管課:教育部学校教育課、生涯学習部生涯学習課

概要(目的、これまでの取組、現状・課題等)

震災を起因とする学校や家庭環境の変化等によるストレスや原子力災害の影響による運動不足が、今もなお子どもたちの健全な成長の妨げとなっています。

そのため市は、「LVMH子どもアート・メゾン」を活動拠点とし、子どもたちの情操教育や学力向上の取組を行っています。

また、子どもたちが音楽活動を通じて積極性、協調性、規律の大切さを学ぶ機会として一般社団法人エル・システムジャパンと連携し「音楽による生きる力を育む事業」を実施しています。

さらに、子どもたちが放射線の不安を感じることなく運動できる屋内施設として、相馬市民プールや相馬こどもドーム、スポーツアリーナそうま第2体育館を整備しました。

屋外での活動も徐々に増加傾向にあるため、屋内外のスポーツ施設の利用を促進し、子どもたちの健康増進を支援していきます。

主な事業

進捗状況	事業名	実施地区・箇所	事業概要
継続	子どもの情操教育事業	LVMH 子どもアート・メゾン	事業内容：絵本の閲覧、エル・システム音楽教室等の実施 事業期間：平成 24 年度～
継続	「相馬寺子屋」事業【再掲】	生涯学習会館 LVMH 子どもアート・メゾン	事業内容：東京大学学生ボランティアによる、中学生を対象とした学習支援 事業費：231 万円(令和 2 年度) 事業期間：平成 23 年度～
継続	相馬子どもオーケストラ＆コーラスへの講師等の派遣事業	市民会館 中央公民館等	事業内容：市内の小中学生を対象に無償で音楽指導教室を開催 技術・指導経験のある音楽専攻者を中心とした大学生、社会人の楽器指導ボランティアを定期的に派遣 事業費：1,004 万円(令和 2 年度) 事業期間：平成 24 年度～
継続	学校の鑑賞教室への演奏家等の派遣事業	市内各小中学校	事業内容：学校で生の音楽鑑賞教室活動を実施 事業費：75 万円(令和 2 年度) 事業期間：平成 24 年度～
継続	エル・システム子ども音楽祭の開催	市民会館	事業内容：市内各校で音楽活動を行う子どもたちが参加できる 市民向けコンサートの開催に併せて、子どもたちの交流プログラムを実施 事業費：455 万円(令和 2 年度) 事業期間：平成 26 年度～
継続	屋内スポーツ施設の活用【再掲】	相馬こどもドーム	施設概要：屋内スポーツ施設（人工芝フィールド約 1,000 m ² ） 事業費：525 万円（令和 2 年度） 事業期間：平成 26 年度～
		相馬市民プール	施設概要：屋内型プール（25m プール、幼児用プール 等） 事業費：1,625 万円（令和 2 年度） 実施期間：平成 29 年度～
		スポーツアリーナ そうま	施設概要：第一体育館（アリーナ、柔・剣道場、弓道場 等） 第二体育館（アリーナ、軽運動場 等） 事業費：3,622 万円（令和 2 年度） 実施期間：令和 2 年度～（第 2 体育館供用開始）

今後の方針(事業上の課題、事業展開予定)

LVMH 子どもアート・メゾンは、情操教育の活動拠点として子どもたちが日常的に利用しやすい施設となるよう、事業の見直しや情報発信をしていきます。

「音楽による生きる力を育む事業」は、子どもの技術に合わせた指導者や指導場所、財源の確保のほか、財源に見合った事業展開について一般社団法人エル・システムジャパンと共に検討していく必要があります。本事業は、有為な人材の育成のみならず、子どもたちの活躍が震災により傷ついた市民の心を癒やすとともに、特色ある音楽祭の開催によって交流人口の拡大にも寄与しています。今後も様々なツールを活用しながら、市内外に広く活動内容を伝え、本事業の活動を応援していただく支援者を増やしていきます。

また、子どもたちの体力向上や健康増進のため、屋内外のスポーツ施設の利用を促進するとともに、安全・安心かつ気軽に利用できるよう、施設管理の徹底を図っていきます。

相馬市マスタープラン 2017 との関係性

第 3 章 安心な子育て環境の整備と心豊かに生き抜くひとづくり

第 3 節 生き抜く力を育む学校教育の充実

(2) 豊かな心の育成と生徒指導の充実

(3) 体力の向上と健康課題の改善の推進

第5章 地域の文化を守り心豊かに生き抜く人づくり

第2節 芸術文化の振興と文化財の保存、活用

(1) 芸術文化活動の促進



相馬子どもオーケストラ



相馬こどもドームでのイベント